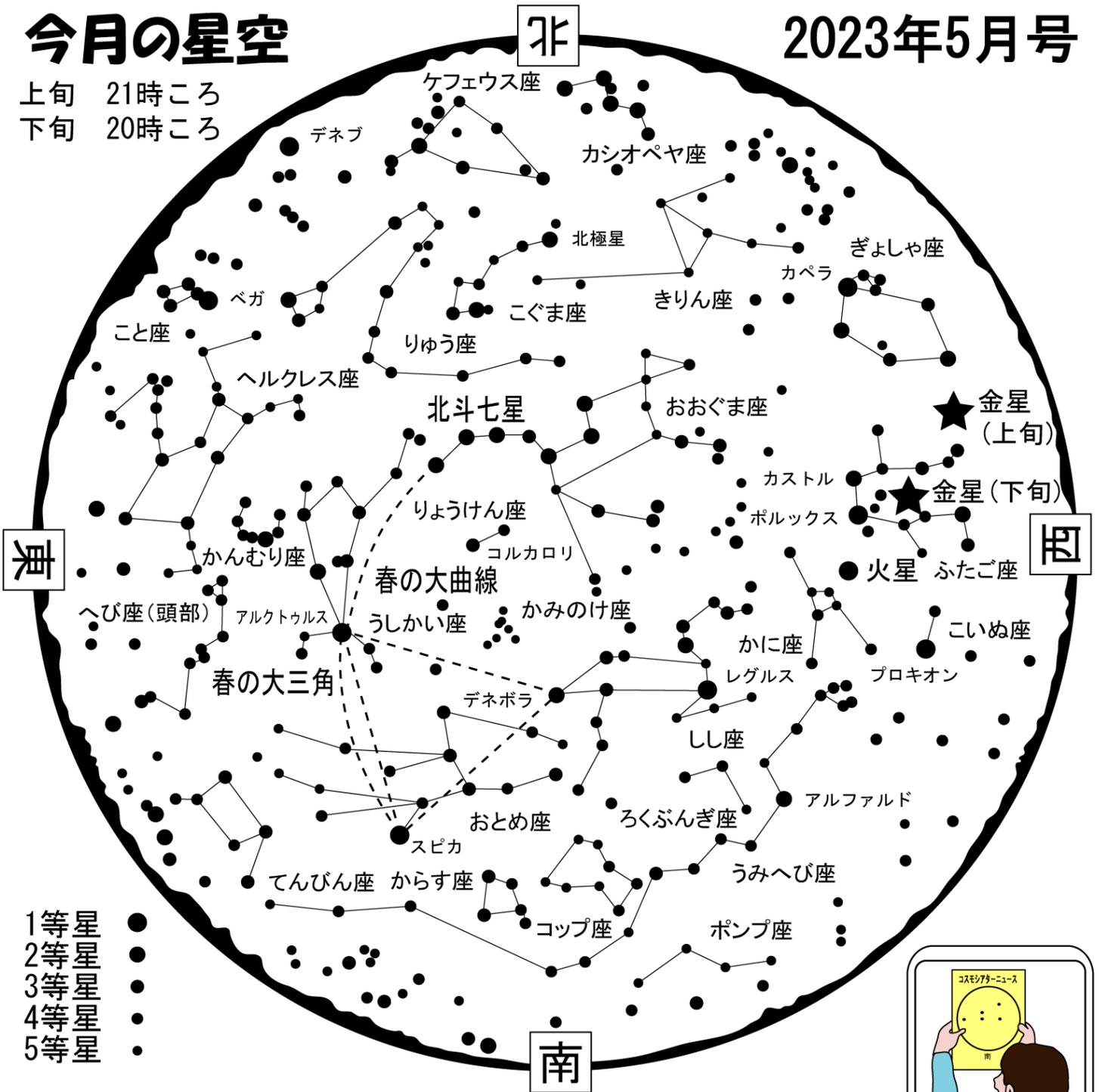


# コスモシアターニュース

## 今月の星空

2023年5月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。  
金星：夕方、西の空に見えます。22時すぎに沈んでしまいます。明るさは-4等星です。  
火星：空が暗くなるころ西の空に見え、深夜に沈みます。明るさは1.5等星です。  
木星：下旬以降の明け方、東の低い空に見えます。明るさは-2等星です。  
土星：明け方前、南東の空に見えます。明るさは1等星です。

### 今月の月の満ち欠け

満月：6日(土) 下弦：12日(金) 新月：20日(土) 上弦：28日(日)



## 6日(土)、半影月食が見られる

6日(土)の明け方前、午前2時すぎに、半影月食(はんえいげっしょく)が見られます。ただし、普通の月食と違って、月がわずかに薄暗くなる程度です。月が欠けて見えるわけではありません。また、真夜中を過ぎていきますので、見やすい月食ではありません。あまりおすすめはしませんが、どうしても見たい方は、午前2時から3時ころ、南西の空に月がありますのでご覧ください。気にしてみれば、月がかすかに暗くなっているのが分かるかもしれません。

## 7日(日)、明け方、みずがめ座流星群が極大

7日(日)明け方に、みずがめ座流星群が、極大(一番多くなる)となります。みずがめ座流星群は、特に東の空に多く現れます。放射点は、真夜中すぎに昇り、明け方にかけてだんだん高くなります。よって、放射点の高くなる明け方前の午前2時ころから午前4時ころに、流星を見ることができます。なお、今年はほぼ満月の月が明るく輝き、条件はよくありません。このため、実際見られる流星は、極大のころ、松山市内で1時間あたり1~2個程度でしょう。また、街明かりのない条件が良い所では、1時間に5個くらいの流星が見えるかもしれません。なお、この前の、5日(金)と6日(土)の明け方も、同じくらいの流星が見られますので、5日から7日の明け方の晴れた時に、見るといいでしょう。

## 16日(火)、ふたご座のカストル、ポルックスと火星が並んで輝く

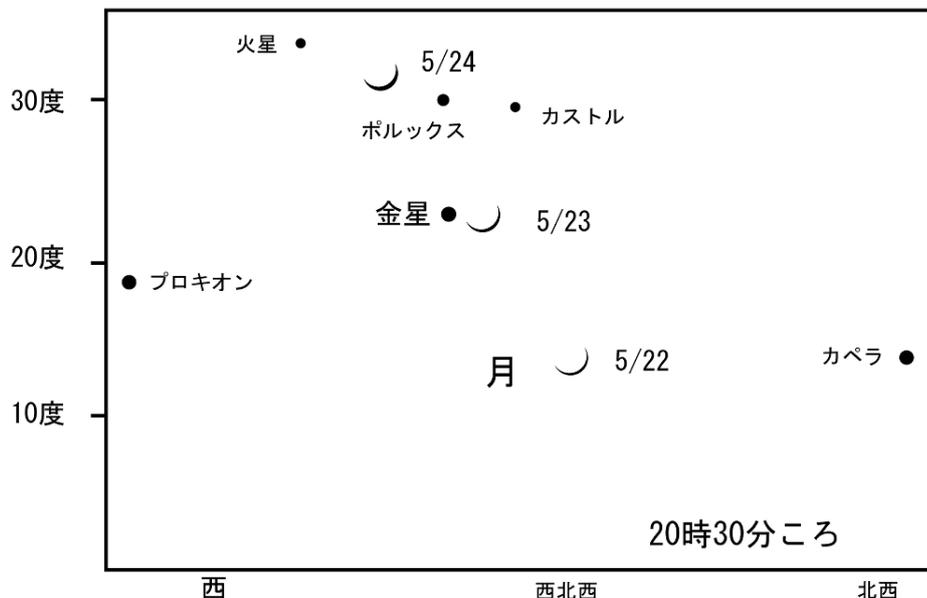
16日(火)の20時すぎ、西の空に輝く金星の上に、ふたご座のポルックスとカストルが、ほぼ水平に並んで輝きます。このうち、左側の少し明るい方がポルックス、右側がカストルになります。このふたつの星は、ほぼ同じ明るさのため、ふたご星とも呼ばれます。そして、16日には、このふたご星左側に、ほぼ同じ明るさ火星も並び、三つ子星のように見えます。この並びは、前後1週間程度続きますので、金星を目印にしてさがして見てください。見やすいのは、21時ころまでになります。

## 23日(火)、夕方の西の空で、月と金星が並んで輝く

23日(火)の20時30分ころ、西の空に、細い月が輝きます。そして、この月の少し左を見ると、金星が輝いているのがたいへん目に付くでしょう。金星が大変明るいので、20時ころに見ると、美しい夕焼けが加わり、より美しく見えます。

さて、月と金星の接近は23日ですが、前日の22日(月)は、金星の右下に月が輝きます。また、翌日の24日(水)は、金星の左上に月が輝きます。天気の良いれば、3日間連続で見ると、月の場所が変化していくがよく分かるでしょう。

なお、金星の周辺に、冬の星座の1等星が見えています。特にプロキオンとカペラは明るく目につきます。また、金星の左上に、火星も見えています。ただし、火星は金星よりかなり暗いので、あまり目立たないでしょう。



## 春の星を見つけよう

春の夜空には、「春の大三角」と呼ばれる大きな三角の形に並ぶ星があります。その中で最も明るい星が、「うしかい座」の「アルクトゥルス」です。

「アルクトゥルス」は、21時ころですと、東の空高く見えるいちばん明るい星です。この星を目印に、南の空を眺めると、右下に「おとめ座」の「スピカ」、右側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

右の図は、21時ころ南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。またちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることとなります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。

